

# 轍

わだち



うめまふるいちば

木曾川を臨む「鵜沼古市場遺跡」で行われている発掘調査では、先人たちが川とどう関わって生きてきたのかを知る手がかりが見つかっています。弧状に巡る弥生時代の溝や戦国期の大溝などが姿を現し、かつてこの地で営まれた生活を伝えてくれます。



# 鵜沼古市場遺跡の発掘調査

犬山東町線バイパス建設工事に先がけて、平成 26・27 年度の二カ年にわたり、鵜沼古市場遺跡の発掘調査を行っています。木曾川べりで営まれた人々の暮らしを物語るように、漁で使う網の錘(おもり：写真 3)なども見つっていますが、これ以外にも各時代の「川の役割」をうかがわせる成果が得られています。

## 奈良時代 ～平安時代

5か所の調査区のうち、A区・C区では、奈良時代から平安時代にかけての住居跡がまとまって見つかっています(写真 1)。狭い調査範囲の中では確定にいたっていませんが、柱穴のいくつかから、掘立柱の建物址の存在もうかがえます。H27 年度の隣接部分の調査では、全体像の解明をめざしています。住居跡からは、ここで使われた須恵器や土師器が出土しています。(写真 2)

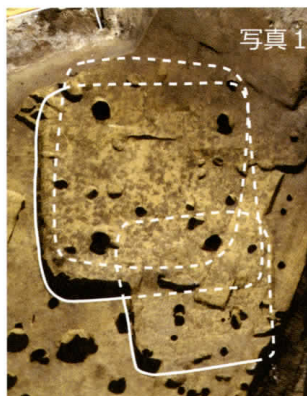


写真 1



写真 2

写真 3



## 弥生時代 ～古墳時代

D区・E区では弥生時代中期と後期から古墳時代はじめにかけての土器を含む溝が、それぞれ検出されています。(写真 4・5) こうした溝の性格として、集落のまわりを取り囲んだ環濠の可能性も考えられますが、当時の木曾川河畔との距離から考えると、川ぞいに設けられた特別な空間を区切るためのものであったかもしれません。



写真 4



写真 5



写真 6

## 戦国時代

残っていた部分だけでも幅約 5m、深さ 1.5m を超える大型の溝(写真 6)をはじめ、現在の地割とも符合する溝群が検出されています。



塩水

地面

写真 7





鶴沼城跡

木曾川は美濃と尾張の国ざかいとして機能し、戦国時代には、美濃を狙う織田信長が木曾川そいの城を攻略していきました。そのひとつである鶴沼城は、遺跡の東に位置し、川べりにそり立つ城山の山頂に築かれています。江戸時代後期に著された「美濃雑事記」には、城山の西麓には土塁や堀が存在していると伝えていきます。今回の調査で見つかった溝も、鶴沼城に関連した、城の麓に築かれた館や町並みを区画する堀の可能性が考えられます。(写真6)

近代になって橋が整備されるまで、河川を渡ることはたやすいことではなく、国境をなす大河では、川を渡ることができる場所は限られていました。遺跡のすぐ南には、大正15(1926)年に犬山橋が開設されるまで鶴沼の渡し(内田の渡し)があり、川をはさんだ行き来を担っており、古来から渡河地点のひとつであったと思われます。律令時代には、畿内と諸国を結ぶ官道が整備され、30里(約16km)ごとに宿駅が整備されました。市域では、東山道が古代寺院の立ち並ぶ蘇原地区を通り、各務駅家(えきや)が鶴沼におかれたと推定されています。今回の調査では、墨で文字が書かれた須惠器(写真8)も見つかっています。当時文字が使われた場所は官公庁や寺院に限られるため、交通の要衝であるこの地に、公的な機関が存在した可能性が考えられます。



写真8

川は交通の障害や境界線としてだけではなく、舟運による物流の役割も果たしていました。対岸へ人や物資を運ぶだけでなく、川上と川下を行きかう舟が、物資だけでなく文化も伝える交通路として機能しました。鶴沼古市場遺跡からは、海辺からもたらされた製塩土器(写真7)がいっつか見つかっています。木曾川をさかのぼって運ばれてきた物資がここから荷揚げされた、川湊(かわみななど)であった可能性も考えられます。

遺跡の南北には、県下第二位の規模を誇る坊の塚古墳をはじめとして、白山平山頂に築かれ、三角縁神獸鏡を検出した東之宮古墳など、木曾川を挟んで、鶴沼古市場遺跡を見下ろす古墳が集中しています。こうした古墳を築いた集団は、交通の要衝であり物流の拠点ともなる川に面した立地を活かし、大規模な古墳を造営できるだけの力をつけていったのかも知れません。遺跡からは、弥生時代から古墳時代はじめての溝や土器も見つかっており、続く古墳時代の繁栄の萌芽を考える貴重な資料です。



# 各務原市埋蔵文化財調査センター

埋蔵文化財調査センターでは、「郷土に暮らした先人の歩み」だけでなく、ふるさとに親しみ次代に継承していく「人」も掘りおこすため、さまざまな取り組みを行っています。

〒504-0914

岐阜県各務原市三井東町4丁目32番地

TEL 058-383-1123 FAX 058-383-8655

休館日：土日・祝日

<http://www.city.kakamigahara.lg.jp/maibun>



歴史 / 野外セミナーを開催し、市民のみなさんとともに学びます。

▼思いどおりにはつくりえない土器



## 市民ボランティアによる 土器製作実験

炉畑遺跡出土の土器を参考に、市民参加で成形・野焼きまで行いました。完成した土器は、小中学校での学習に役立てるよう、市教育委員会に寄贈されました。



▲灼熱の炎にあぶられての野焼き



▲縄文時代を体感できる土器を小中学生に

今年度よりはじまった「寺子屋事業」や中学生の職場体験では、発掘調査のしごとにも触れ、郷土の歴史の解明のための取組みを伝えています。

## さまざまな体験学習

- ▶展示室の出土土器をよく観察して
- ▼どうやって模様をつけていたんだろう
- 発掘調査の機材も使ってみよう△



これまでの「かかみがはらの埋文」を、センターのあゆみ、郷土の歴史をお伝えする年報として、あらたに「轍」と名づけました。